

K-ABC 中央事例研究会のご案内

初秋の時季となりました。会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、今年度第2回中央事例研究会のご案内をお送り致します。KABC-IIの検査結果の分析や解釈、支援への活用についての研修会です。今回は、申し込みは必要ございません。また、非会員の方も参加いただけます。ぜひご参加ください。

なお、本事例研究会で学校心理士更新ポイントB1のポイントを申請中です。

記

日時 : 2024年10月12日(土) 14:30~16:30
場所 : 『アトラスタワー 茗荷谷』 3階 図書文化社 301大会議室
発表者 : 町田 育美 先生(山形県公立小学校特別支援教育支援員)
テーマ : 継次処理と同時処理に差がない小学6年生への書きと計算の学習支援
~学習意欲の啓発と不登校改善を目指して~

概要:本事例では、書きと計算に困難性がある不登校の児童に対して、認知特性に即した学習方法を提案し、学習の困難性を軽減することにより、不登校の改善を目指した。

対象児童Aは、環境の変化を発端として不登校傾向になり、その後環境を元に戻しても不登校傾向が継続していた。KABC-IIの結果から、特に「ことばの書き」と「計算」の数値が著しく低く、これが児童Aの登校への抵抗感につながっていると考えられた。そこで、児童Aの持つ継時尺度と同時尺度両方の数値が高い特性を生かした指導方法を提案し、学習面から来る登校に対する抵抗感の軽減を図った。また、保護者も検査結果の説明を受け、児童Aの持つ高い能力と特性を理解し、児童Aに適した学習環境を整えることの重要性が認識できた。この結果、児童Aに適した指導を実施することで、小学校段階で登校を増やすことができ、中学校進学時に在籍変更を行い、より本人に適した学習環境が構築できたことで、毎日登校出来るようになった。このことから、対象児の認知特性に合った指導方法の実施と、児童及び保護者の対象児童の検査結果に基づく能力、特性の理解が、児童Aへの指導・支援として効果的であったことが示唆された。

参加費 : 会員(無料)・非会員(2000円:当日会場でお支払いください)

お問い合わせメールアドレス : 事務局 soumu@k-abc.jp

※会場へのアクセス(地下鉄茗荷谷駅徒歩1分)

- ①茗荷谷駅改札を春日通り側に出る。
- ②茗荷谷駅を背に左側のベージュ色の高層ビルの3階です。(春日通りに面したビル)
- ③春日通り側から1F ローソン横の屋外エスカレーターまたは階段を上がり、屋内エレベーター(1か所)で3階までお越し下さい。